



西山富三郎議員

### 自治体にとっての危機とは

### マニュアルを作成し対応

**問** 自治体の危機管理上大地震や台風における災害対策と不祥事対策は車の両輪である。

住民からの「批判の発生と信頼感の喪失」が危機といえる。

対応は十分であるか。

- (1) 長のリーダーシップ
- (2) 防災対策は
- (3) 専門家の育成は
- (4) 住民との訴求は
- (5) 不当要求行為に対しては
- (6) 住民の評価の基準は人である。職員評価は
- (7) セクハラ・いじめに対しては

**答** (山口町長)

- (1) 常に情報を得て的確に把握し、防災マニュアルに基づき対策を指示する。責任と判断を基本としている。
- (2) 毎年、地震等を想定した防災訓練を実施し、住

民の防災意識の高揚を図っている。

(3) 1名専任職員を配置している。検討したい。

(4) 開発協議の際、建物位置の変更の取り扱いについて1件該当があった。

すでに解決をした。

(5) 八橋警察署と不当要求行為防止に対する合意書を交わしている。

12名の職員が対応責任者として任命され、すでに専門研修を受講し、修了証書をもらっている。

(6) 人事評価を昨年から試行している。職員の資質の向上が目的である。

(7) 職員労働組合、執行部とも、事象が発生しないように事前のチェック体制をとっている。



名和小で行われた防災訓練

### 劇団すだちに何を学ぶか

### 現実に学び行動している

**問**

中山中学校で数年前に、差別事象が起こり、PTAや学校に大きな衝撃と憤りを与えた。

啓発活動の必要性を痛感し、自分たちの思いや言葉を「劇」にしたいと、Mさんの脚本「手紙」を参考にすることにした。

差別の現実と家族の絆の大切さをあらためて考え、話し合い、連帯感が根づいた。

劇団「すだち」は中山中学校参観日、みんなの人権セミナー、部落解放人権確立鳥取県研究会などで上演し、多くの感



多くの人に感動を与えた「劇団すだち」

動を与えており、大山町の誇りである。第59回全国同和教育研究大会で、中山地区の二人の方が鳥取県を代表して報告した。涙ながらの報告は深い感動を与えた。

劇団「すだち」に何を学ぶか。 結成し、啓発活動に取り組んでいる有志に心から敬意を払いたい。

- (1) 日ごろからの実践の大切さ
- (2) 自ら考え判断し行動している
- (3) 語り合い、絆を深めた仲間づくり
- (4) 継続をしている等々

**答** (小原康正教育委員長)

差別事象を子どもたちだけの問題とせず、家庭・地域の問題であると行動を起こしたことに感謝している。特に劇団「すだち」を

差別心と向き合い闘う姿は人びとに感動を与え、生き方を磨いていると心強く学んでいる。